



大野城市民総ぐるみ防災訓練 結果概要

大野城市総合教育会議 令和4年2月9日

危機管理部 安全安心課

◆ 添付資料 目次

- (1) 大野城市民総ぐるみ防災訓練について P1
- (2) 令和3年度 大野城市民総ぐるみ防災訓練 結果概要 P2~4
- (3) 訓練の検証 及び 次年度に向けた取り組みについて P5~8

大野城市民総ぐるみ防災訓練
2021.11.27 (土) 14:00~
14:05頃 緊急地震速報が鳴ります！
地震は必ず来る！！
いのちを守る**3**行動
緊急地震速報が鳴ったら・・・
いのちを守る3行動をとりましょう！
DROP COVER HOLD ON
①姿勢を低く ②頭・体を守る ③揺れがおさまるまで動かない
おねがい
ご家庭で「いのちを守る3行動」の訓練を行った後は、
「逃げタイル運動」へのご協力も併せてお願いいたします。
「逃げタイル運動」とは
地震が起きた避難するとき、乳瓶やポストなど目立つところにタイルをかけ、
「避難の完了を周囲に知らせる運動」のことです。
救助活動などを行う際に、非常に役立つとされています。
大野城市民総ぐるみ防災訓練実行委員会
お問い合わせ先：大野城市役所 安全安心課 / TEL：092-580-1899

(1) 大野城市民総ぐるみ防災訓練について

◆ 目的

- 災害発生時等に被害を最小限に抑えるため、生命・身体を守る適切な避難行動がとれるよう、子どもから高齢者まで全ての市民が参加できる、総合的な避難訓練を実施し、自助、共助、公助の連携による減災に努める。
- 市、区、学校、コミュニティ等の防災関係機関によって、災害発生時の各機関の役割の確認や、応急対策の実効性について検証し、災害時の連携強化及び防災技術の向上並びに市民の防災意識の高揚を図る。

◆ 感染症対策について

今年度はコロナウイルス感染症対策として、令和2年度に引き続き、参加人数を縮小して訓練を実施しました。

◆ 実行委員会について

訓練の実施については、実行委員会を組織し、協議を行い、訓練内容や実施に関する事項を決定しました。また、実行委員会で決定した事項に基づいて、各区で組織した作業部会で詳細を決定する方法で意思決定を行いました。

○実行委員会

区長会、各コミュニティ運営協議会、NPO法人 共働のまち大野城、校長会、副校長・教頭会、大野城市社会福祉協議会、安全安心課

○作業部会

行政区長・副区長、小中学校職員、コミュニティ運営協議会、地域行政センター、NPO法人 共働のまち大野城、安全安心課、危機管理課

(2) 令和3年度 大野城市民総ぐるみ防災訓練 結果概要

◆ 実施日時

令和3年11月27日（土）

午後2時～（緊急地震速報の吹鳴）

◆ 訓練項目

- ・ 市内一斉緊急地震速報対応訓練（いのちを守る3行動）
- ・ 自主防災組織による訓練
- ・ 小・中学校避難訓練
- ・ 感染症対応避難所開設・運営訓練（モデル学校）
- ・ コミュニティセンターにおける訓練※南コミはワクチン接種のため東コミで見学
- ・ 防災啓発展示及び総ぐるみ防災訓練PR展示
- ・ 避難所運営模擬体験訓練

◆ 訓練会場

- ・ 避難訓練：市内46避難所（4コミ、27公民館、15小・中学校）
- ・ 防災展示等：心のふるさと館

(2) 令和3年度 大野城市民総ぐるみ防災訓練 結果概要

◆ 総参加者数 (逃げタオル除く)

⇒ **10,556人** ※令和2年度 9,023人 令和元年度 18,016人

内訳 ※ () 内は参加者

(1) 自主防災組織による訓練 (区役員等)

⇒358人

(2) 小・中学校避難訓練 (小中学生、教職員)

⇒9,864人

(3) 感染症対応避難所開設・運営訓練 (教職員、市職員、区役員等、
社会福祉協議会、小中高生※大利中、大野東中、筑紫中央高校)

⇒223人

(4) コミュニティセンターにおける訓練 (NPO、コミ運協、地行セ)

⇒38人

(5) 避難所運営模擬体験訓練 (市職員)

⇒73人

※消防署・警察・自衛隊・国土交通省などの防災関係団体はコロナウイルス感染症のため参加はしないこととした。

(2) 令和3年度 大野城市民総ぐるみ防災訓練 結果概要

◆ 訓練周知活動について

実施項目等

- 広報大野城：11月15日号
- ホームページ：広報掲載に合わせて公開
- SNS等：11月最終週に直近告知として掲載
- 広報チラシの配布（幼稚園・保育園・小中学校・筑紫中央高校）
⇒約16,000枚配布
- 広報ポスター掲示（公共施設・商業施設・駅構内）
⇒約200枚配布
- 回覧板による周知
- 各種報道機関：11月中旬に訓練取材依頼（CS福岡含む）
⇒CS福岡による取材あり（大和中学校）

(3) 訓練の検証 及び 次年度に向けた取り組みについて

1、小・中学校避難訓練

◆概要

市内の小中学校で緊急地震速報対応訓練(いのちを守る3行動)、避難訓練、防災啓発授業などを実施した。※御笠の森小は保護者引き渡し訓練も併せて実施した

○小中学校訓練一覧

	大野小	大野北小	大野南小	大野東小	大利小	平野小	大城小	下大利小
避難訓練	○	○	○	×	○	○	×	○
啓発授業	○	×	×	○	○	×	○	○
その他	×	×	×	×	×	×	×	×
	御笠の森小	月の浦小	大野中	大野東中	大利中	平野中	御陵中	
避難訓練	○	×	○	○	○	○	○	
啓発授業	×	○	×	×	○	○	×	
その他	○	×	×	×	×	×	×	



←緊急地震速報対応訓練(いのちを守る3行動)の様子

校庭への避難訓練の様子⇒



(3) 訓練の検証 及び 次年度に向けた取り組みについて

2、感染症対応避難所開設・運営訓練

◆概要

地震が起きた際に学校を避難所として開設することを想定して、感染症対策を施した避難所を開設・運営する訓練。パーテーションやビニールシートを用いた感染症対策やゾーニングを実施し、体調不良者が避難してくるなど、4パターンのシミュレーション訓練を実施した。

◆目的

大野城市では、今まで学校での避難所開設の経験がなく、開設の手順や運営の流れなどを確認する必要があったため。

また、市職員・教職員・区役員など学校における避難所関係者に各々の役割を再認識してもらうため。

○避難所の受付の様子



○訓練に参加する中高生



○シミュレーション訓練



(3) 訓練の検証 及び 次年度に向けた取り組みについて

1、感染症対応避難所開設・運営訓練

◆問題点や課題（主な意見等）

- 想定通りの訓練も良いが、想定付与無しの訓練も実施してみたい
- たくさんの人にこの訓練を経験してもらい、災害時には、誰でも同じ対応をできるようにしておく必要がある（情報共有が必要）。
- 発災時、市職員は未着も教職員も児童・生徒の対応で精一杯の場合、誰が避難所設営や避難者への対応をするのか
- 子どもの安全確保と避難所開設・運営を両立するには人手が足りない

※ その他、各参加団体から①避難方法に関する意見、②避難所運営に関する意見、③要配慮者の対応に関する意見、④訓練の進め方に対する意見、⑤避難所の環境に関する意見などが出された。

⇒ 訓練を実施した中で、訓練の想定や進行などの実施要領に関する課題、各地区のモデル校による訓練の実施という訓練方式に関する課題、避難所開設・運営に携わる人手不足に関する課題などが浮き彫りとなった。

(3) 訓練の検証 及び 次年度に向けた取り組みについて

◆ 次年度に向けた取り組み方針（事務局案）

来年度は、今年度の検証結果も踏まえて、住民避難訓練と学校における避難訓練（保護者引渡し訓練）、一斉安全確保行動の訓練をベースに、下記の内容について改善を図りたい。

- 想定パターンの拡充
- 新たな訓練方式の考案
- 学校避難所開設における地域と学校とのルールづくり
- 避難所に関する人出不足の解消（防災士の活用など）
- 訓練参加者数の拡大（幼稚園・保育園等含む）

◆ 訓練日程について

今年度の日程（時期）については、学校や区と事前調整のうえ設定したが、大きな問題はなかった。ただし、日曜日の方が人が集めやすいのではないかとの意見もあった。

⇒ 次年度は、11/26(土)に実施予定。